

令和4年8月19日

静岡県立大学長  
尾池 和夫(公印略)

### 教員の公募について

このたび、本学国際関係学部では、下記の要領で専任教員を公募いたします。

#### 記

- 1 所属 国際関係学部国際言語文化学科  
国際関係学研究科比較文化専攻（兼務）
- 2 職名及び人員 助教1名
- 3 専門分野 英語教育学・応用言語学(およびその関連分野)
- 4 担当予定科目 フレッシュマンイングリッシュ II、英作文、英語アクティブラーニング
- 5 任期 なし
- 6 応募資格
  - (1) 博士の学位を有する者、又はこれと同等以上の研究歴・実績を有する者(英語母語話者以外の場合は、英語圏への留学経験があることが望ましい)。
  - (2) 本学が推進している COIL 型教育に理解があることが望ましい。
  - (3) 国籍を問わず、講義・校務を行うに足る十分な日本語力を有すること。
  - (4) 採用後は静岡市又はその近郊に居住できること。
- 7 特記事項 なし
- 8 提出書類((3)を除いて各1部)
  - (1) 履歴書(写真貼付のこと)
  - (2) 研究業績一覧表(末尾の「研究業績の記載について」を参照のこと)
  - (3) 主要な研究業績(著書・論文) 3～5点(各5部。抜き刷り、コピー可。それぞれに400字程度の要旨を付けること) ※ PDF ファイルによる各1部の提出でも可。
  - (4) 研究概要・研究計画書  
これまでの研究概要(3000字程度)、及びこれからの研究計画(3000字程度)をそれぞれまとめたもの。
  - (5) 今後の教育に対する抱負や考え(書式自由:1000字程度)
  - (6) 担当予定科目「英語アクティブラーニング」のシラバス(半期15回分)  
「英語アクティブラーニング」の配当年次は1・2であり、英語の4技能を扱いながらプロジェクトワークを行う内容である。
  - (7) 卒業・修了証明書(大学卒業以降のもの)
  - (8) 学位取得証明書(学位取得者の場合)

9 応募締切日 令和4年10月19日(水)正午必着

10 選考方法

(1) 第1次選考 書類審査

(2) 第2次選考 面接

面接の際、模擬授業の実施を求める場合があります。なお、旅費は応募者の負担となります。

11 採用予定日 令和5年4月1日

12 勤務地 静岡市駿河区谷田52番1号 静岡県立大学草薙キャンパス

13 勤務条件等 本学規程による。詳細は以下のURLをご覧ください。

<https://www.u-shizuoka-ken.ac.jp/guide/disclosure/corporate-regulation/>

14 提出先及び問合せ先

〒422-8526 静岡市駿河区谷田52番1号

静岡県立大学事務局教育研究推進部広報・企画室 国際関係学部担当 宛

電話 054-264-5106

Eメール tyous4@u-shizuoka-ken.ac.jp

封筒に「教員応募関係書類在中(英語教育)」と朱書し、書留郵便等、確実な方法でお送りください。

(Eメールでの提出はできません。)

15 応募上の注意点

(1) 履歴書及び研究業績一覧表の様式は、静岡県立大学ホームページからダウンロードしてください。URL <https://ir.u-shizuoka-ken.ac.jp/recruit/>

(2) 応募書類は、原則として返却いたしません。原著等で返却を希望される場合は、応募者の費用負担により返却しますので、返却を希望する旨を明記の上、郵便切手を貼った返信用封筒、又は着払い扱いの宅配便の宛名ラベルを同封してください。

(3) 提出いただいた書類は、厳重に保管・管理し、審査終了後は責任をもって廃棄します。また、提出いただいた書類に含まれる個人情報、個人情報保護法に基づき、選考以外の目的には使用いたしません。

#### 《研究業績の記載について》

研究業績一覧表の作成に当たっては、以下の点に留意してください。

- 1 査読付き学术论文には表題の冒頭に必ず○をつける。
- 2 公刊されていないものは業績に含めない。例えば、私家版、同好会雑誌、内部資料及びこれらに類するものは一切業績に含めない。日本語の場合は、国会図書館に所蔵されている著書、雑誌以外のものは業績に含めない。ただし、未公刊の学位論文はこの限りではない。
- 3 委託調査報告書などで、チームで報告書を作成し、執筆分担が特定できないものは、業績に含めない。ただし、委託調査報告書などでも、一般の図書館で閲覧が可能であり、かつ執筆者が特定できるものは業績に含めて構わない。
- 4 近日中に公刊されることが明確になっている著書(すべての原稿が出版社に渡り、出版社が刊行を約束したもの)又は論文(編集者が最終原稿として受け付けたもの)などは業績に含めることができる。また、国際会議等に提出した英文等の論文も業績に含めて構わない。

- 5 論文の場合は、自分の執筆したページを明記する。
- 6 共著書、共同執筆論文については、すべての共著者名、共同執筆者名を省略せずに明記する。
- 7 「共著」とは、書物の表紙・背表紙に自分の名前が載っているものを指す。それ以外の分担執筆については、すべて「論文」に分類する。
- 8 科学研究費などの研究助成を受けている場合は、その採択状況を研究業績一覧の末尾に記すこと。